

曲亭馬琴著
 傾城水滸
 傳第二編
 歌川國安画
 上帙卷之上

13
 1964
 5





百屋の賣物八百色（やぶやのうりものひやくしき）小限（こげん）も学者（がくしゃ）の千屋（ちや）され物（もの）大を
 漁（うし）と欲（ほ）され駱駝（らくだ）山鴉（やまからく）もとありありと譚（だん）らんを欲（ほ）され魚（うしほ）獵（りやう）
 角（かく）觥（かう）の下段（げだん）もゆけり（ゆけり）飛（と）死（し）を好（この）ほ人（ひと）の世（よ）之（の）雪（ゆき）も敷（敷）るも堅（かた）ら
 のを悦（よろこ）ぶ客（きやく）の棒（ぼう）吞（の）の喉（のど）もいさゞ足（あ）るも神事（かみじ）舞（ま）のするも雲（う）雀（さく）
 獨（ひとり）樂（がく）より速（はや）く藤（ふじ）八（はち）文（ぶん）のまゝと機（はた）閑（かん）泉（いづみ）も終（は）ふ及（およ）びむ（む）され去（さ）
 年の流（なが）行（ゆ）より今（いま）茲（こゝ）の不易（ふいぎ）ふまゝとありと号（ごう）より先（ま）の著（あ）せし
 傾（か）城（じやう）水（みづ）澗（ま）の初（は）編（へん）の評（ひやう）判（はん）の野（の）と岐（ぎ）の樓（ろう）木（ぎ）に鴉（からく）られ甲（か）斐（はい）も
 のりあつた（あつた）六（む）后（ご）とと継（つ）三（さん）絃（げん）の三（さん）まむ四（し）條（じやう）の燈（とう）心（しん）もとも氣（き）根（こん）と減（げん）ま
 夜（よ）並（な）仕（し）直（ち）も癖（くせ）の馮（ほう）心（しん）もつるけの本（ほん）店（てん）遅（お）の美（み）知（ち）るあつた（あつた）れと鶴（つる）
 屋（や）が頭（かぶ）を長（なが）く七（しち）松（しょう）も壽（じゆ）く千（せん）世（せ）萬（まん）代（だい）春（はる）の仕（し）入（い）るを合（あ）し
 るたゞく急（き）ぐ如（ごと）律（りつ）令（れい）法（ぽう）論（ろん）見（けん）の通（と）り女（に）才（さい）もく序（しよ）と

曲亭馬琴識



ナハ...



このやまを
樹卯花松

おのひまや實の
ねぬ
恋するも
と死名ともふ
流流を平ととる

著作堂

億乾通
老狗



飛か川る
破よめは
こころめち
人聚の
友代

齋

野干玉
黒媛

真琴屋

阿實



目よ見えぬころれ

垢乃ともよもしち

うそや人の穢手

はくむ 簾笠

雑掌

富安舳大夫



白圭の沙弥軟清

こそも亦ゆきま平の

名や身んをゆきま

ゆきまゆきまゆきま

艶美僧

狂齋



女醫者

陸船



〆二編

お屋の山路も下
月と日
何なるよ
お屋狼

信天翁

早蠅
鳴神を送りて
齊筆挿
梵天國土秋を
迎ん
関奇
假綾梭
赤尾



樹卯の大刀自

使廳走卒
足高嬉平

女金剛禪

岩莫

真琴屋真

ナハナノ...

日



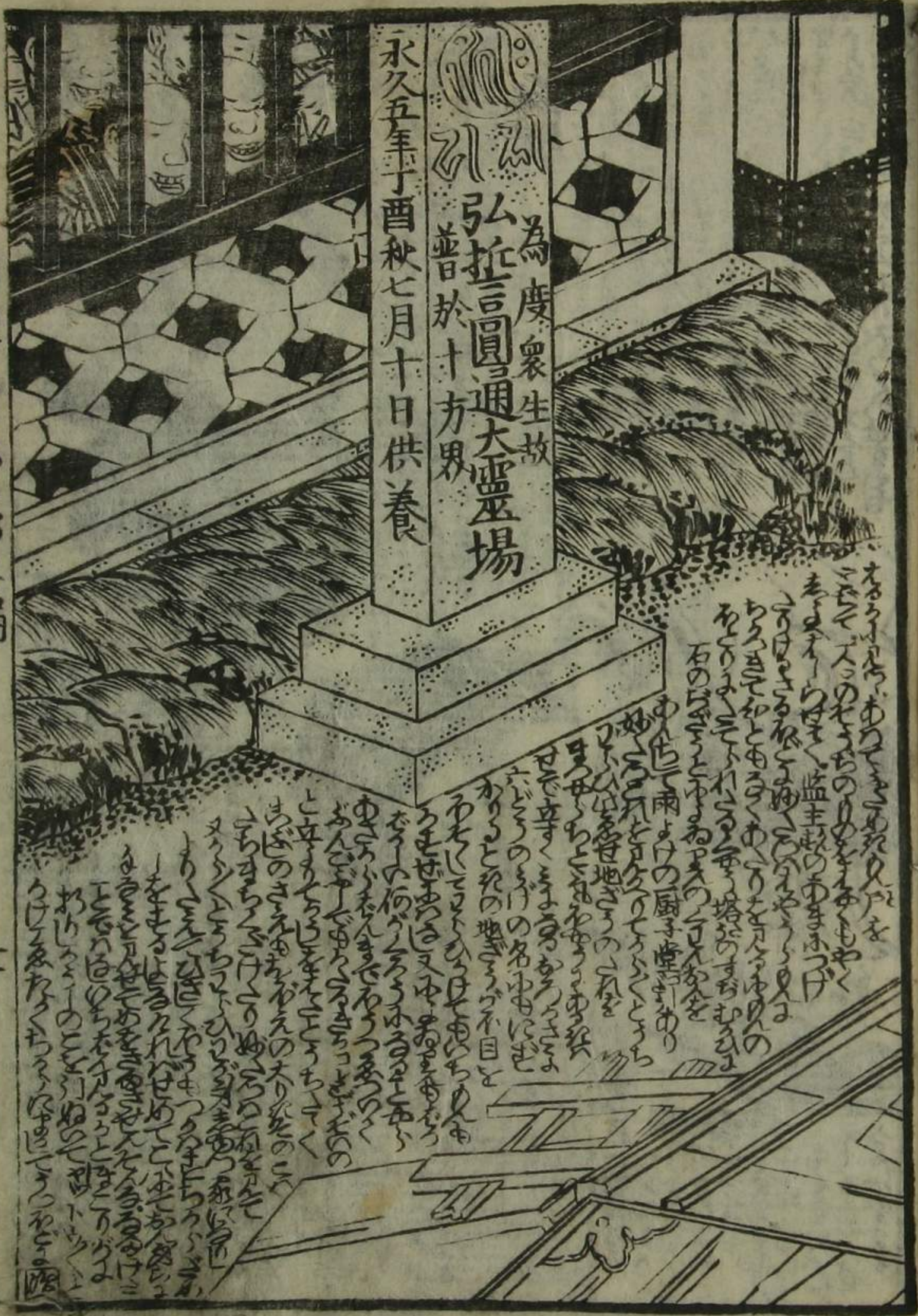
此の如きものも、
 江戸の町に、
 多く見られる。

此の如きものも、
 江戸の町に、
 多く見られる。



此の如きものも、
 江戸の町に、
 多く見られる。

此の如きものも、
 江戸の町に、
 多く見られる。



為度衆生故
 弘誓圓通大靈場
 普於十方界
 永久五年酉秋七月十日供養

夫此所處之屋
 乃大聖人所居
 其地乃大聖人
 之居處也其地
 乃大聖人之居
 處也其地乃大
 聖人之居處也
 其地乃大聖人
 之居處也其地
 乃大聖人之居
 處也其地乃大
 聖人之居處也
 其地乃大聖人
 之居處也其地
 乃大聖人之居
 處也其地乃大
 聖人之居處也



夫此所處之屋
 乃大聖人所居
 其地乃大聖人
 之居處也其地
 乃大聖人之居
 處也其地乃大
 聖人之居處也
 其地乃大聖人
 之居處也其地
 乃大聖人之居
 處也其地乃大
 聖人之居處也





二編



しんせいのこけ二條

近來選擇相宅の書年々少く行かれて五車小
盈十牛の汗を流す者あり然るに法体初心の為ゆ
を解せんとこれより抑この書協紀辨方書原本
にて方位相神教走避の要領を著して吉に就
つて通福の禳福を迎へて宗と示はるるは
その學を陳べて救済不辨の計とすも解難
ひ易り大凡家の主人その常小坐右小指を吉
凶悔吝の惑るるは死日用有善の良籍有り



瀧澤篁氏著

迎福南鍼録

一名相宅手引草
全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本全五冊繪入
平假名附 近刻

右書其遠く用板仕の江戸通書林 仙鶴堂小松喜右衛門印行

近來選擇相宅の書年々少く行かれて五車小
盈十牛の汗を流す者あり然るに法体初心の為ゆ
を解せんとこれより抑この書協紀辨方書原本
にて方位相神教走避の要領を著して吉に就
つて通福の禳福を迎へて宗と示はるるは
その學を陳べて救済不辨の計とすも解難
ひ易り大凡家の主人その常小坐右小指を吉
凶悔吝の惑るるは死日用有善の良籍有り

